

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇Heart Art in TOKYO 2014 –蓄光性PVC和紙複合作品の展示–

■ [随想](#)

◇PVCな人生（第3回）

株式会社タイポー 代表取締役社長 平野 二十四

■ [編集後記](#)

■ トピックス

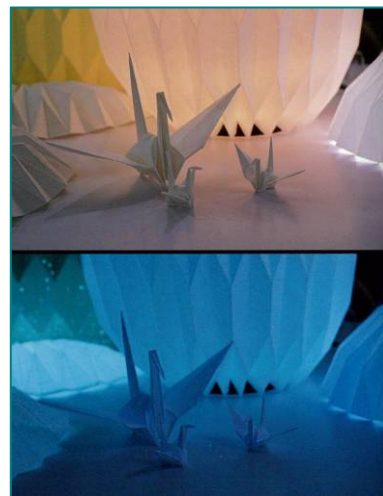
◇Heart Art in TOKYO 2014 –蓄光性PVC和紙複合作品の展示–

一般社団法人 Heart Art Communication (H.A.C.) が主催する第17回エイズチャリティ—美術展が東京六本木にある国立新美術館で、1月13日から2月3日まで開催されました。このH.A.C.は国内の美術家や美術愛好家の交流を図り、国内外に日本の美術作品の魅力を啓蒙するとともに、美術を通して社会貢献活動に取り組んでいる団体です。

今回、「PVC Design Award 2013」の製品応募をされた光心堂の桂堂玄定氏が蓄光性の和紙を中心とした作品を特別展示することをお聞きして、国立新美術館を訪れました。桂堂氏は京都在住の方で、特殊な蓄光素材を用いて和紙に漉き上げた淡光紙を開発され、青や赤などの蓄光を実現されています。また、アコーディオンの伸縮模様に見られる折り紙技術を習得されて、いろいろな照明の笠を作られています。



淡光紙の照明



淡光紙の発光

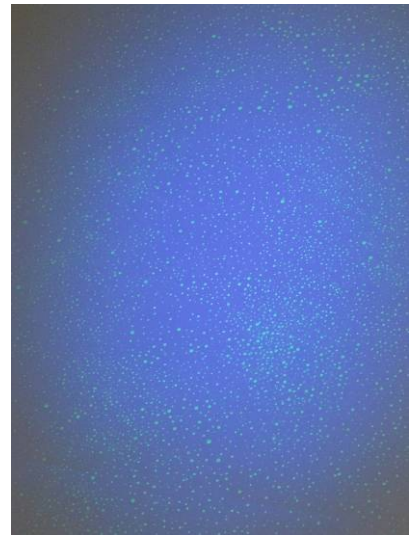
(上：点灯時／下：消灯後)

洋画、日本画、水墨画、彫刻、工芸、写真、書道、文藝、鉛筆画などの展示会場の奥に、10畳近いスペースを得て、作品が展示されていました。当初の希望とは異なり、外部からの光が入るために十分な蓄光性の効果が発揮されていないのは残念でしたが、ブラックライトを用いて、蓄光の静かな輝きを見ることが出来ました。

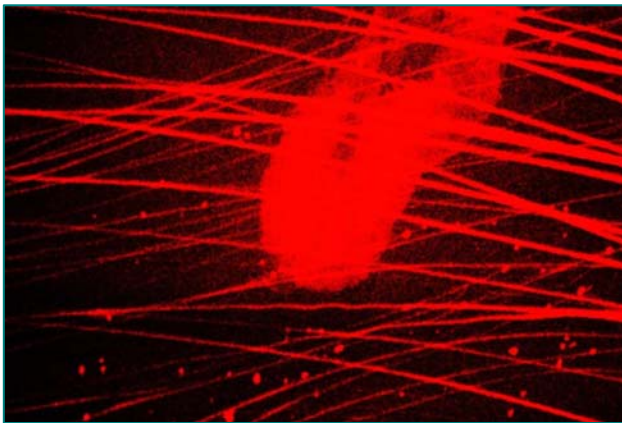
入口には大きな和紙に墨で「観自在」と書かれ、奥には大徳寺真珠庵の百鬼夜行図を模写した「人」を中段に、「地」を下段、「天」を上段に据えた作品が展示されていました。この作品は塩ビペースト樹脂に蓄光素材を分散させて、和紙の表面に塗布したもので、一筆書きの繊細な描写が仄かな灯りに踊っているような錯覚を持たせる作品です。側面にはワーロン社の塩ビ製和紙が青色に光り、満天の星座が輝く様を表現しています。また、赤い蓄光が緑に重なって輝いたり、スズメが草むらに戯れている作品も見られました。



上段：「天」／中段：「人」／下段：「地」
（「PVC Design Award 2013」に製品応募された作品）



ワーロン社：塩ビ製和紙



芸術性の高い作品が会場の雰囲気にもマッチしていましたが、この蓄光性の淡光紙は、普段使いの飾りや照明器具でありながら、災害時の停電等のときには非常灯の様に辺りを明るくして、避難を助けることが出来るそうです。是非、この技術が既存の塩ビ壁紙や新たな分野を切り開き、塩ビの多様な分野に活かされることを願っています。

■ 随想

◇PVCな人生（第3回）

株式会社タイボー 代表取締役社長 平野 二十四

<塩ビのタイボー>

塩ビのリサイクルに特化していった TAIBO。1987 年には宮崎の黒田工業さんの造る農ビの再生材を全量（年間約 1,000 トンほど）扱わせて頂くこととなり、1989 年、愛知県から岐阜に 3 工場を統合移転する頃には、レーザーや糸入りガーデンホースなど粉碎して分離する塩ビ対象物も年間 4,000 トンほどになっていた。そんなこんなで、この頃には日本の名だたるレーザーメーカーさんやホースメーカーさんとお付き合いをさせて頂き塩ビの TAIBO と言って頂くようになっていた。



黒田工業 本社



TAIBO 岐阜工場

岐阜の工場を立ち上げた当時の私は若干 29 歳。朝 6 時の始業から夜 10 時の終業まで、設備の設計、配置、改修、求人、勤怠管理、人材育成から（若かったので教えるどころか教えられる毎日だった）、手が足りない時は現場作業に至るまでの何から何までやらねばならぬ、バタバタの毎日だった。

ちなみに私の一日が始まるのは朝 6 時、5 時半頃になると目が覚める。会社の人はいきなり今日も皆休まずに出てきてくれるだろうか・・・そのうち機械の音が聞こえてくる、ほっとして少しまどろんでから起きる。

夜になると、今日も 1 日誰もケガなく終われるだろうか？ と心配しているうちに機械の音が止まる・・・ああ～良かったあ。

しかし私の 1 日はまだ終わらない。ここから呑みに行くのだ！ 岐阜には美川憲一の歌にもある“柳ヶ瀬”と言う素晴らしい場所がある。安く呑ませてくれて、気さくで、素敵なお姉さまがいて・・・それに、美味くて洒落たお店もいっぱいある！ 地元でとても良くして頂いた建設会社の社長（友人）と毎晩呑みに出かけ、一度なんか会社へ帰って来たのが朝 6 時。入社する社員とハチあわせて「お早うございまっすう。今お帰りですか！？」なんて声をかけられたことも。

そんなこんなでこの頃は寝るのが 4 時間、下手すれば 2 時間なんて日が続いていた。もちろん忙しくてだが・・・当時私の持論は「4 時間以上寝る人は人生を無駄にしている」だった。しかしその後あえなくダウン。家内に岐阜まで車で迎えに来てもらい 2 週間ほど寝込んでしまった。

それ以降「睡眠はしっかりとらないとかえって仕事はかどらない。睡眠は 6 時間から 8 時間はとるべきだ」に持論を変えた。

<中国進出の目論見>

1995 年頃、岐阜工場が出来て 4～5 年くらいたった頃か、時代はおりしも塩ビバッシングがたけなわで TAIBO の塩ビ取扱量も半減していた。

そんなおり、何か仕事のネタは無いのかと探していると世間では中国ブームが始まっており、使用済みの農ビがそのまま輸出されているのを知って好奇心旺盛な私は伝手をたどりすぐに中国に飛んでいった。

「訪れた工場では農ビをプールの中に入れなんと人が一緒に入って洗っている。そうして土を落とした農ビを籠ですくっては地面にあけて、天日に干して乾燥させていた。雨が降ったらどうするのか？ と聞くとまた晴れるでしょっ」とのこと。他にも「10mm ぐら

いに砕いたプラスチックの粒を数十人がずらっと並んで机の上で一粒づつ、黄、青、白、赤などと色別に分けて」いたり（雑色のままより単色の方が高く売れるから）、「船から数百トンの荷物を降ろすのにフォークリフトが見当たらず、聞くとそんな高いモノは必要ない。千人かけても人手で降ろす！」だなんて初めての中国は衝撃的だった。

また、結構お金をかけたリサイクルの啓蒙ビデオを作成する企画で、クルーと中国に出国する際税関で TV カメラなど数千万円相当の機材をすべて没収され（当時の中国はメディアに対して今以上に神経質であった）取り戻すのに3日かかったことなど中国での思い出は数えきれない。

中でも一番の思い出と言えば、学生時代英語すら見事な赤点だった私は、言葉が通じないことなどすっかり忘れ地図を頼りに1人で行ったは良かったが、言葉が“まったく”通じないと本当に何もできない事を痛感させられた。誰や！「中国は漢字で書けば解る」と言ったやつは！これに騙された。香港は分からないまでも、まだなごりのある英語がちらほらしていたが、いざ中国本土に入ってみると周りは漢字だけ。音読みと訓読みの発音以外に“漢字が表す意味自体が違う”じゃないかッ！・・・笑顔で一緒に仕事をしましょうと言いたくて「仕事」と書いたのだが、まずその「仕事」の字から躓いた・・・怪訝そうな顔。身振り手振りで仕事を説明しようとするのだが全く通じない。結局帰国してから教えてもらった。仕事は「工作」と書くのですと・・・違うでしょうお。今でこそ「手紙」の笑い話を耳にしますけど。

今にして思えばよく一人で行ったと思うが、中国での商習慣、考え方の違いなどしっかり勉強させて頂いた。ただ“純真だった私が”色々なことに疑り深くなって、帰国するたびに性格が悪くなったんとちがう？と言われるのにはへこんだ。（今も自分は純真だと思っている）

しかし数年後に私は、上海、香港、マカオ、ソウル、プサン、台北は、〇〇の通りの〇〇の角を曲がったところにあるビルでね、なんて待ち合わせが出来るようになっていた。

その頃リサイクルした原料の値下げにより、購入して集めていた塩ビの廃材は、いつしか処理費用を頂くようになっていたので「①まず排出元から頂く処理費で収入を確定する。②中国には TAIBO のリサイクル設備を資本代わりに持ち込み新たな会社を創り、ここが塩ビ廃材（日本ですでに処理費を頂いた粉碎分離再生の対象）を日本から購入し、粉碎、分離、再生する。③中国でリサイクルした原料の内、日本でニーズの有る分は再度日本へ輸入して、余力の原料は中国国内に販売する。」というビジネスモデルを考えていた。

中国をあちらこちら回った結果、人柄が真面目と言う理由で資本金 60 万ドルの会社を烟台で創ることにして帰国したのだが、お金の回収が難しいのはもとより、身内だなんだと言って社員がすぐ何百人にも膨れ上がったり、優遇してくれると聞いて工場を建設したが 2~3 年すると同じ（コピーされた）工場が向かい側に出来たとか、日系企業の中国での失敗談を聞くうちに冷静になった私は、結局そのアイデアとチャンス？を放棄してしまった。

だが、もしこのビジネスモデルを当時実行していたら TAIBO をつぶしていたと、私は今でも思っている。

（つづく）

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

最近の名前は難しいです。子供に友達の名前を聞くのですが何度聞いても覚えられません。雑誌を見ていたら、難しい名前の代表でキラキラネームについて紹介されていました。英語圏の方の名前は読めても、同じ日本人の名前はさっぱり読めないと嘆いておられました。下の名前はみなさん読めますか？

1. 姫星 2. 泡姫 3. 今鹿 4. 黄熊などなど

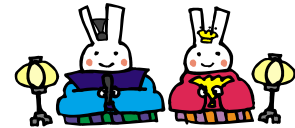
まず1番は「きてい」です。それを聞くとそれ以降はまさかの連続で大体想像がつかます。

正解は2番「ありえる」3番「なうしか」！！4番「ぷー」！？

みんなカタカナ？？驚きました（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp